

A photograph of two rhinoceroses in a zoo enclosure. The rhinoceros in the foreground is on the left, looking towards the right. The second rhinoceros is behind it, also looking right. The background is filled with pink cherry blossoms against a clear blue sky. The title 'はばたき' is written in large yellow characters across the top.

はばたき

NO. 25

1989.3

神戸市立王子動物園

ひとりごと

飼育している動物たちに、一番怖いものは？と聞いたら“それは人間”という答えが返って来ると予想されます。

なぜ“人間”か？少なくとも動物園に勤務している者は、日夜君達の健康や住み心地のよいようにあれこれ考えているのに！

私の仲間は、外見だけではオスカメスカの見分けがつかない姿をしております。何年経っても子宝に恵まれないと、私達を捕まえて太い注射器で血を抜いて検査をされます。その時の怖いこと。心臓が止まる思いがします。しばらくの間は、飼育のおじさんの姿を見ただけで胸がドキドキして、息苦しくなる思いをしました。

幸い、近頃は研究が進んだのか私達の排泄物で検査できるようになり、痛い目にも合わずにすんでおります。

今まで年に二回、飼育のおじさんに捕まえて、風切り羽根を切られておりました。大事な財産が風に乗って逃げないようにするためです。その際に足を折ったり、心臓マヒで死んだ仲間がおります。あの細くて長い足を折れば、もうおしまいです。また羽根を切られると、肝腎な結婚が上手に出来なくなり、仲間を増やすことが出来ません。他所では、羽根を切るだけでなく翼の半分を片側だけ切られた、という怖い話も聞きました。

ここまでの話だけでも何と“人間って勝手な生き物”がお分かりになったでしょう。

物資の豊富な日本に住んでいるので食べものには困りませんが、毎日ミカン、リンゴ、バナナばかりではいやになります。たまに季節の果物でもくれたらと思います。ドッグフードという人工飼料よりましですが。

最近仲間入りしたものですが、前に何が棲んでいたのか、今までかいだこともない臭いがプンプンします。飼育のおじさんは新参者のために綺麗に掃除してくれてピカピカした

新居ですが、匂いだけは残っております。我々は人間以上に鼻は敏感だからです。

またお隣も気になります。人間社会でも隣の騒音で事件があったと聞きました。

飼育のおじさんには毎日毎日親切に世話をしてもらっておりますが、コンクリートと鉄格子の住まいはいくら馴れてももの悲しいものです。

神戸市立王子動物園長 福岡順三

もくじ

◆ひとりごと	2
◆動物の国際交流	
●種の保存と国際親善	3
◆動物育児日記	
●7年ぶりのトラの子	5
●6年ぶりのキリンの子	6
◆おもしろ動物写真館	8
◆飼育うらばなし	
●青草が好き	10
●コウノトリの巣づくり	11
◆動物なぜなぜ問答	
●かわいい子カバが乳をのむシーンを見たことありません。なぜなのでしょう。	12
●おっぱいいっぱい	12
◆動物もの知り手帳	
●ヘビについてQ&A	13
◆動物科学資料館の手引	14
◆トピックス	15

表紙写真

(撮影 福田元二)

動物の国際交流 種の保存と国際親善

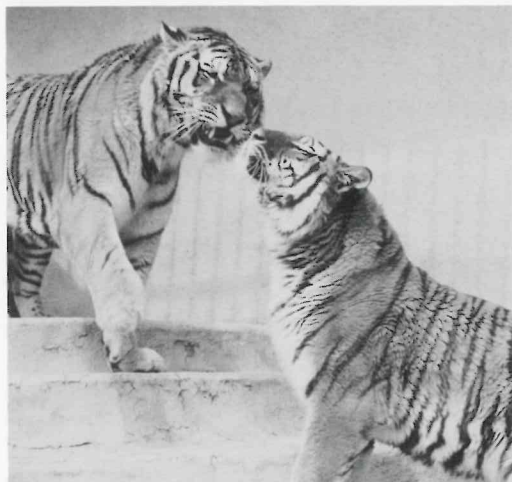


神戸港で天津への出発を待つキリン

最近、日本各地の動物園では動物の国際的な交流が盛んに行われております。各都市とも世界の都市と姉妹提携あるいは友好提携が結ばれ、友好のシンボルとして動物の交流が行われています。そのほか、動物園の使命として、数が少なくなっている動物の増殖を行うため、ブリーディングローンと呼ばれる、繁殖のための動物の貸し借りを外国の動物園と行うことが試みられています。

王子動物園においても、ここ10年来、動物の国際交流を毎年のように行い珍しい動物の確保と増殖に努めており、そのうえ国際親善動物として入園者に親しまれています。そこで、過去をふりかえって、国際的に交流した動物をまとめてみました。

まず、古くは王子動物園の前身であった諏訪山動物園時代の昭和10年に、アルゼンチンのブエノスアイレス動物園からピューマとカラカルが贈られた、という記録がありますが、本格的に国際交流が行われたのは昭和51年以降で、特に中国との交流は頻繁で毎年のように実施して



アメリカとカナダから贈られたアムールトラいます。そのほか、アメリカ、ソ連などとも交流を行っております。

まず中国関係ですが、昭和41年、まだ国交が再開していない中国と交流したのが始まりのようです。この時は北京動物園にファンボルトペンギン6羽を贈り、アジアコウノトリ6羽を受けています。昭和47年に中国との国交が再開しましたが、その前後に宮崎・神戸市長と故周恩来・元首相との間でフラミンゴを贈る約束が交わされ、その翌年にチリーフラミンゴ10羽が北京動物園に贈られました。現在、これらのフラミンゴは40羽以上に増えているようです。

昭和48年に、神戸市と中国の天津市が友好都市として締結してからは、天津動物園との交流が活発に行われるようになりました。昭和51年にマサイキリンの雄が神戸港から海路で天津に向かって以来、昨年までにカバ、ラマ、ピューマ、クロヒョウ、カラカル、カンガルー、チンパンジー、マントヒヒ、リスザル、インコ類など16種類、59頭(羽)の動物が天津へ渡り、中国のこどもたちに親しまれています。この中には、カバやラマ、カラカルなどのこどもが誕生しています。

一方、天津から王子動物園に贈られた動物は、昭和51年にタンチョウとオオヤマネコが贈られて以来、クロハザル、レッサーパンダ、カワウソ、ミミキジ3種、コウノトリなど10種類23頭

(羽)の動物ですが、いずれも中国原産の貴重な動物ばかりで、タンチョウやクロハザル、ミミキジなどはこどもやひなが誕生しています。

中国との動物交流で特筆すべきことは、珍しい人気のある動物を借受けたことです。即ち、昭和56年には神戸のポートアイランドにおいて開催されましたポートピア博覧会に、天津動物園から2頭のジャイアントパンダを約6カ月借受けました。大変な人気で、博覧会の成功の一端を担ったといえるでしょう。また、昭和60年には、神戸で開催された全国都市緑化フェアでも天津から金糸猴のペアを借受けて展示しましたが、同じ頃に開かれたユニバーシアード神戸大会に集まった世界の若人に見ていただき、大変好評でした。

中国以外の国との交流では、まずアメリカですが、昭和51年にはサンディエゴ動物園の好意により我が国では初めてのアムールトラの雄が贈られ、翌52年にはその相手の雌がカナダのトロント動物園から贈られました。そして、その年にはこのペアにこどもが生まれ、それ以後こどもたちは日本各地の動物園に養育養女として巣立っていきました。また、神戸市と姉妹都市であるシアトル市との交流ですが、昭和53年にウッドランドパーク動物園からオセロットのペアが贈られ、今でも健在です。シアトル市へは昭和55年にオオツルのペアを贈りました。

最後にソビエトとの交流ですが、神戸市の姉妹都市であるラトビア共和国リガ市動物園と行っています。昭和55年にリガ市からヨーロッパ

ビーバーのペアが贈られ、その返礼として昭和57年にニホンザルのペアをリガ市に贈りました。そして、昭和61年には同じくリガ市動物園からヨーロッパカワウソの若いペアが贈られ、今、王子動物園の人気者になっています。そのお返しとして同年にリスザル10頭をリガ市動物園に贈り、リガ市民にかわいがられています。

この他、ブリーディングローンとしてアメリカのリンカーンパーク動物園所有の札幌円山動物園生まれのユキヒョウの雌を借受け、昨年ヘルシンキ動物園から購入した雄とペアを組ませ、やがてかわいいこどもが誕生することを期待しています。

このように動物の国際交流は年々盛んになり、これからもますます活発に行われ、動物の種の保存を促進しながら国際親善に役立てていきたいと思えます。(谷岡正之)



カワウソ



天津から贈られた果下馬の贈呈式

動物育児日記

■7年ぶりのトラの子



昨年10月28日、トラの赤ちゃん(メス1頭)が生まれました。赤ちゃんは目も見えず、歯も生えていません。体重は1000g、体長28cmとやや小さめでした。お母さん(愛称アイ)は3歳8ヶ月と若く、初めての出産のためか

3時間を経過してもお乳を与えません。赤ちゃんはしきりにお乳を探しますが、お母さんは少し座ると立ち歩き、落ち着きがありません。1時間おきぐらいに授乳を確認するため観察に行きましたが、3対6つある乳首はな

んの変化もなく、お乳を飲んだ形跡はありません。出産後7時間が経過し、順調なら授乳していなければならないのに。あと2～3時間観察し、もしお乳を飲んだ様子が見られない場合は人工ほ育で育てよう準備もしていましたが、時計を見ると午後6時ちょっと前でした。ウロウロと寝室を歩き回っていたお母さんが、横向きに後足を前に出す姿勢で寝ていました。過去何度となく経験しましたが、子どもが授乳しやすい姿勢です。お母さんのお乳も大きくはっています。今、下腹に見えるお乳に吸いついてくれればなあーと思った時、お母さんの顔の近くにいた赤ちゃんが、首をふりふり動き出したのです。「今だ、もっと、もうちょっと右だ」と小声で応援しました。両方そろえた母親の前足でコロリところび、また戻ろうとする。「ああー逆だ、反対だよ」その時また同じ大きな足でころびました。でも今度はいい方向になりました。「もうちょっと、もう少しだ、がんばれ、がんばれ！」赤ちゃんはお母さんのお腹に顔をすりつけながら、少しづつ、少しづつお乳に近づきました。「ああーよかった」やっとお乳にたどりつ

きました。わずか1mほどを歩くのに10分余もかかりました。ガラス越しに見ている私には、チュー、チューとお乳を吸う声は聞こえません。でも、乳首をくわえ、喉がゴクン、ゴクンと動くのがよくわかります。「よし、よくやった、よかった」5分ぐらい吸っていただろうか。ペシャンコになっていた赤ちゃんのお腹がいくらか大きくなった様に見えます。7年ぶりに生まれた喜びよりも、心配させられた1日でしたがもう一安心。翌朝8時、気付かれないように近づくと、ちょうど授乳している時でした。つい「よし、よし」と声が出ました。これで絶対に育つという確信も得ました。

その後も順調に育ち、14日目には目が開き、40日目には歯が生えはじめました。体重も6kgと約6倍に成長しています。また2ヶ月にもなると、お肉も自分で噛んで食べるようになります。また、3ヶ月を過ぎると、広い放飼場でお母さんと走ったり、たわむれて遊び、終日を過ごします。暖かい日にはぜひ親子のかわいい姿を見においで下さい。

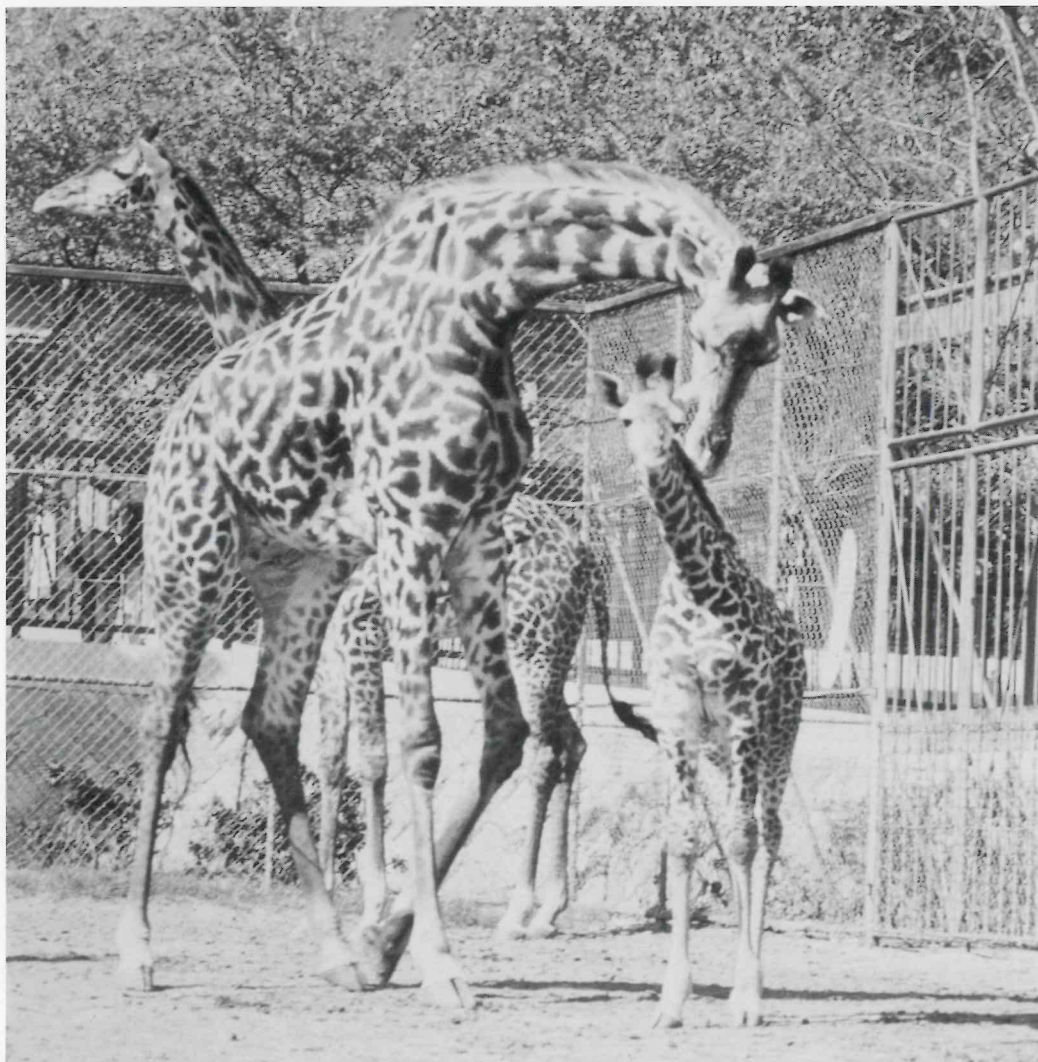
(岸田一也)

■6年ぶりのキリンの子

王子動物園におけるマサイキリンの飼育は、1967年にアフリカから雌1頭が来園したのが始まりです。それ以前はアメリキリンを飼育していました。1967年以降、4年間に雌3頭と雄1頭がアフリカより来園しています。当園でのマサイキリンの初めての出産は1973年に見られました。それから1982年までの9年間に、4頭の母親から実に24回もの出産が見られました。しかし、1982年に雄のナガオが突然死亡したため、1988年までの6年間にはキリンの出産は見られませんでした。お客様にとってキリンは人気の高い動物であり、特に赤ちゃんキリンがいると、日曜日などは黒

山の人だかりが出来るほどでした。動物園にとっても、種の保存という立場から再びマサイキリンの繁殖を目ざすために、1984年に宮崎フェニックス自然動物園から2歳の雄を1頭導入しました。その結果、1988年に待望のマサイキリンの赤ちゃんが産まれました。

6年ぶりに生まれたキリンは、雌で5月に生まれたのにちなみ「サツキ」と名づけられました。しかし、これより先に同年の3月9日に雄1頭が生まれていました。この子は3月生まれということでマーチと命名されましたが、約1ヶ月の早産で母乳の出も悪く、飼育係による人工授乳も行いましたが、19日後



に死亡してしまいました。

キリンは神経質な動物であるため、出産時には関係者以外の立ち入りを禁じると共に、飼育係による観察も母親を興奮させないように注意しなければなりません。しかし、サツキの場合は夜中に生まれており、私達が動物園に来たときには、すでに走れるぐらいになっていたので何の苦労もさせられませんでした。サツキの母親はミネコといって、現在までに7回の出産をしていますが、一度も子供を死亡させず、子供達は国内はもちろん海外では神戸市の友好都市である中国の天津市へも贈られています。

サツキはもうすぐ1歳になりますが、冬の寒い日でも外に出るのが好きで、室内にいる

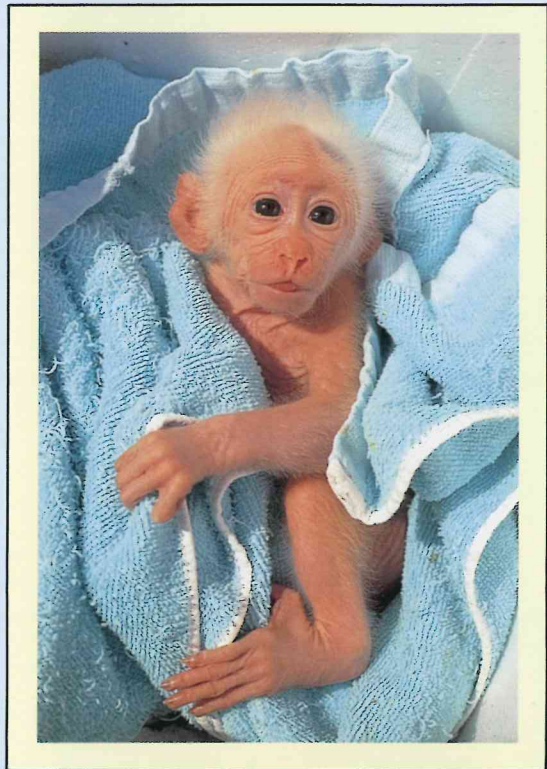
ことは減多にありません。人間の子供も風の子と言われるように、どんなに寒い日でも外に出たがります。これは、動物にとって共通のことなのかもしれません。サツキは運動場でも、特に入園者の近くにいることが多いので、まぢかに見ることができます。サツキは、キリンの社会ではまだまだ子供ですが、身長（地面から頭まで）は約2.5mもあり、飼育係も見下げられています。

当園では、昨年に続き今年も出産予定があります。これからは、いつ来てもキリンの赤ちゃんが見れる動物園と言われるように努めていきます。

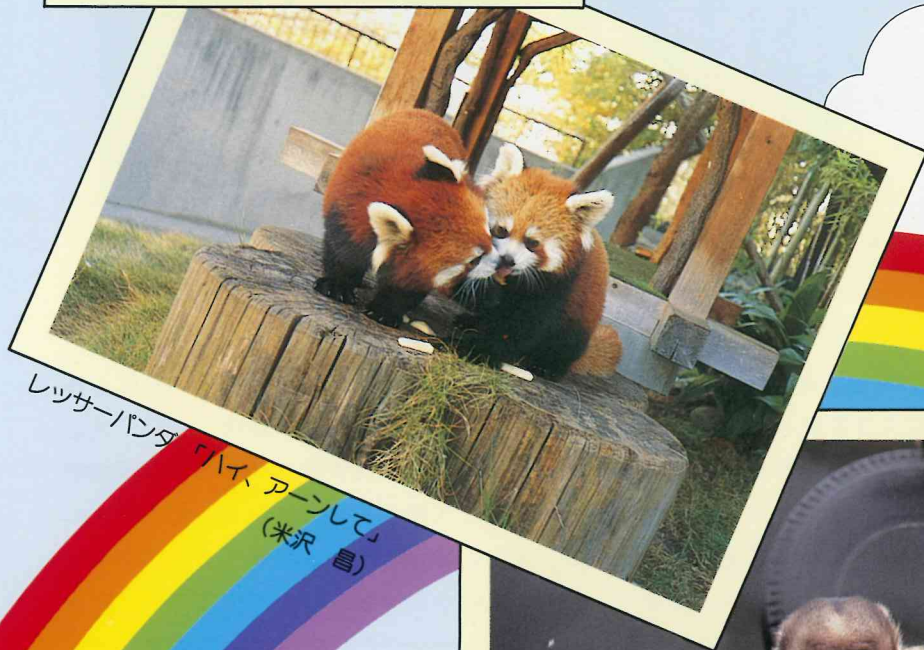
動物園に来られたら、サツキをはじめ、他の6頭のキリン達も見て下さい。（兼光秀泰）

おも 動物

この写真は、昭和63年9月
した特別展「おもしろ動物展」
だものです。



ベニガオザル
「ミルクほしいヨー」
(村田浩一)



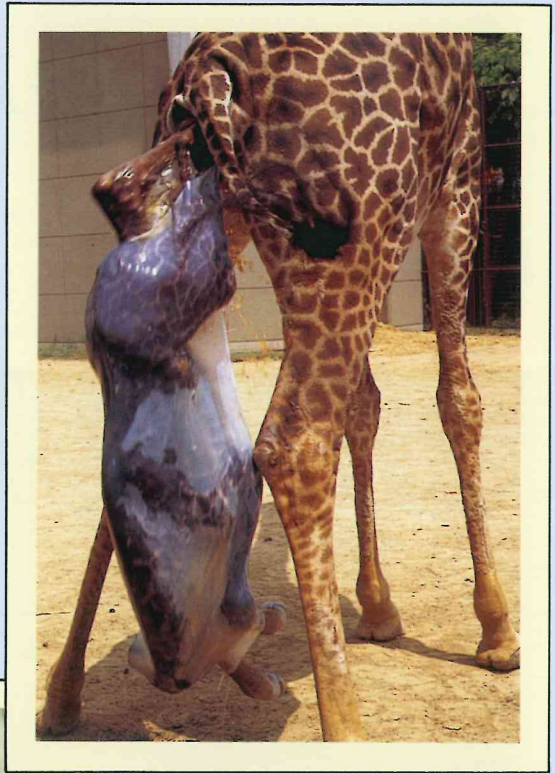
レッサーパンダ
「ハイ、アーンして」
(米沢 昌)



フサオマキザル 「いじめっ子」 (福田元二)

いろ 真館

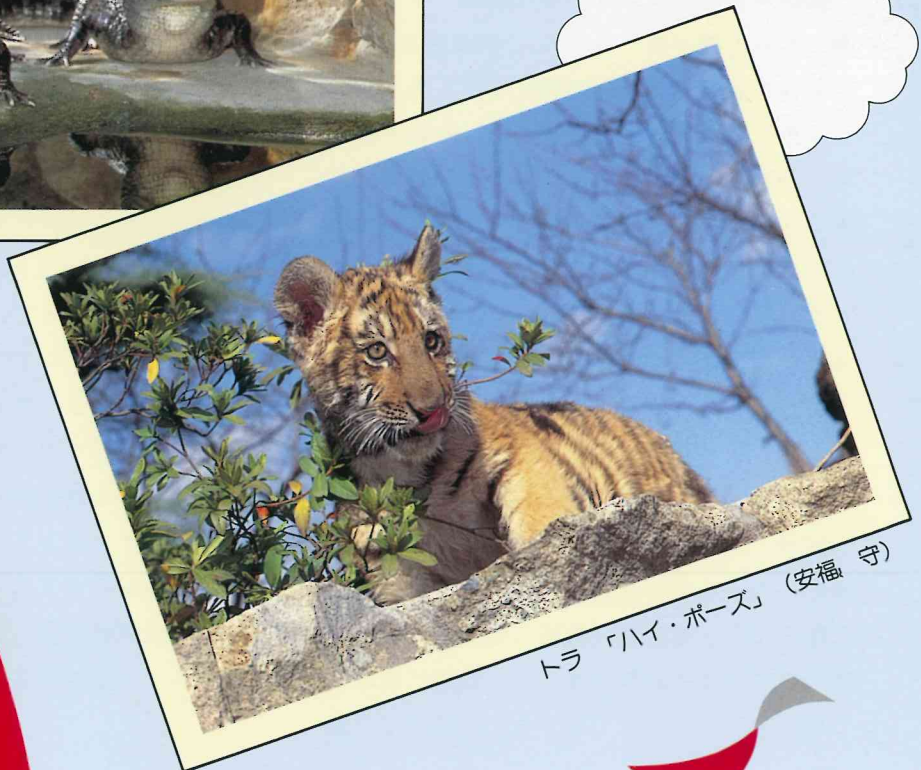
3日から10月2日まで開催
「真館Part 2」の中から選ん



キリン 「新しい生命の誕生」
(兼光秀泰)



パラグアイカイマン
「カエルじゃないよ」
(谷岡正之)



トラ 「ハイ・ポーズ」 (安福 守)



飼育うらばなし

■青草が好き (草食動物の粗飼料)

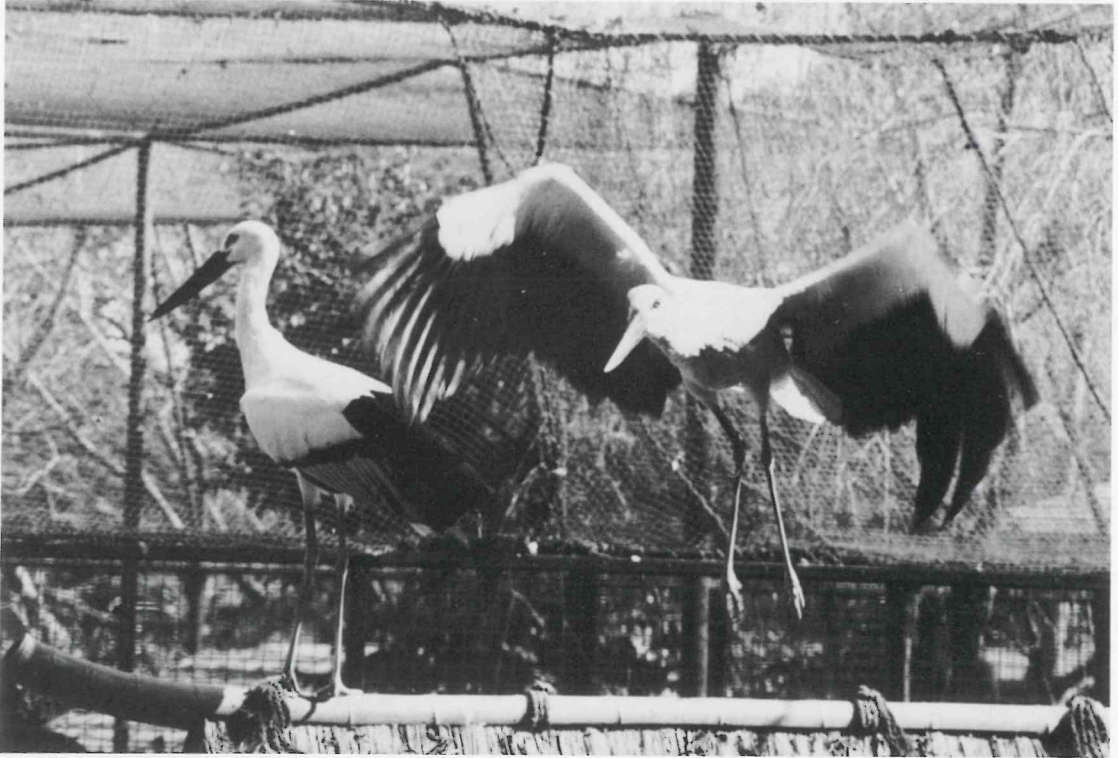


動物は食べ物により、草食動物(草、木の葉、木の皮等を食べるもの)、肉食動物(肉や魚を食べるもの)、雑食動物(草食も肉食もするもの)のように3つのタイプに分類されます。今回は草食動物の飼料である牧草、乾草、実取り飼料、青刈作物、多汁質飼料、野草、飼料木について話をします。古代の人々は、家畜に与えるための草を栽培するようになりました。そこで家畜が好んで食べ、栄養が多く、しかも早く大きくなり量がたくさん取れる草を、長い年月をかけて雑草の中から選びだし、そして改良を積み重ねてきました。その結果、土地に合った種類(暑さに強いもの、寒さに強いもの、干ばつに強いもの)の牧草を作りだし、採草地や牧場に種を蒔き牧草の栽培をするようになりました。牧場に栽培した草は家畜を放牧して食べさせ、採草地に栽

培した牧草は、冬季の家畜の飼料にするために草丈が大きくなり栄養が一番多い時期(穂がでて花が満開の頃)に刈り取って数日干して乾草にします。人が食べるために作る物を作物、家畜に食べさせるために作るものを飼料作物と言います。また実を取るための作物を実取り作物、飼料作物が実までに刈り取ることを青刈、青刈にするために作る作物を青刈飼料作物と言います。当園では家畜の青刈飼料を草食動物に与えるために、春はイタリアンライグラス、アカクロバ等を1日に100kgも購入してシフゾウ、カバ、ロバに与えます。夏から秋には、キングミレット、アカクロバ、ソルゴー、メヒシバ、エンバク等を1ヶ月に5000~6000kg購入して、ゾウ、シフゾウ、カバ、サイ、ダチョウに与えますが、動物たちが新鮮な青草をととてもおいしそうに食べているのを見ると、とても心がなごみます。飼料作物のなかには、多汁質飼料と飼料用ジャガイモ、サツマイモがあります。イモは大きく沢山取れますが味が悪く食用には向きません。その他飼料用南瓜がありますが、1個の目方が30kg以上になる物もあります。野原や空き地に生えているススキ、チガヤのような硬い草はインドゾウが好んで食べます。タンポポ、ノグシ、クロバ等はウサギの大好物です。河原や川の堤防、山すそ等に生えているクズ等も良い飼料になります。ニセアカシア、ハナアカシア等、飼料に利用できる木のことを飼料木と言います。これらの飼料のことを粗飼料と言いつつ草食動物には欠かすことのできない飼料です。

(福田豊光)

■コウノトリの巣づくり



高さ15.2m、幅35m、奥行き17.5m、面積387㎡の大フライングケージ内にある高さ約10mの巢皿にコウノトリの夫婦が寄りそって、求愛のクラッタリングをしたり、同居しているカムリヅルを追い払う行動が、12月中下旬頃見られるようになります。それは繁殖期が近づいてきた証なのです。ただちに準備してある巢材（桜、アカシヤ等）の小枝をケージ内に入れてやると、オスのコウノトリが近づき、合成樹脂の人工くちばし（くちばしが折れてしまったので人工のくちばしを付けています）で桜の小枝をくわえると、あずまや風の屋根に飛び上り、タイミングを見計らって巢塔へ運んでいきます。そして、巢塔で待っているメスと共同で小枝を組み合わせ、2～3週間で骨組みをします。次に稲ワラ、干草を敷きつめ、座り具合を見ては修復して、愛の巣を完成させるのです。この時期は食欲も増し、気性も荒くなってきます。そして、2月から4月にかけて、オスメス交代の就巢行動が見られ、いよいよ産卵の期待が高まりますが、一向にその気配がありません。そして5年間も裏切り続けられたのです。そんな時、東京多摩動物公園で「日本初のコウノト

リのヒナ誕生」のニュースが1988年4月に発表がありました。

同時に、当園でうれしい話が進められていたのです。友好都市の天津動物園から若いコウノトリ2羽を譲り受けることです。さっそく繁殖を主に考えた旧混血コウノトリ舎を改造することになったのです。人間に自分の姿を見られることを非常に嫌うために、来園のお客様を遠ざけるスペース（安住の地）の確保。そして、事故（飛ぶ時にネットにぶつかる）などのないように1.5mから2mくらいの低い巢塔などのある新しいコウノトリ舎が完成したのです。そして1988年9月に、若いコウノトリ2羽が天津から到着しました。警戒心の強いコウノトリは、まずペアリングさせることがとても難かしいのですが幸いにも同居はスムーズに進み、仲よく好物のドジョウを食べております。でも、お客様からの「コウノトリはどこ？」の声が気がかりなのですが、繁殖を目標にした新コウノトリ舎なのでよく見えないときがあってもお許し下さい。3年先、5年先のヒナ誕生をお待ち下さいね。

（安福 守）

— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●かわいい子カバが乳をのむシーンを見たことありません。なぜなのでしょう

カバはウシ、イノシシと同じ偶蹄目の仲間です。(ヒヅメの数、ウシ、イノシシは2本、カバは4本、つまり偶数のヒヅメの仲間)

おとなしいカバは、驚くとすぐプールに逃げこみます。2トンもある肥った体では陸よりも水中の方が安全なのでしょう。

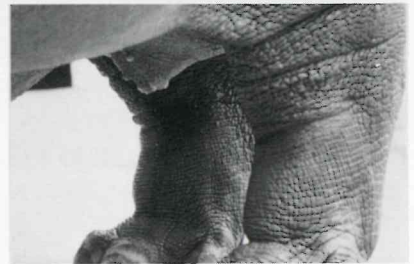
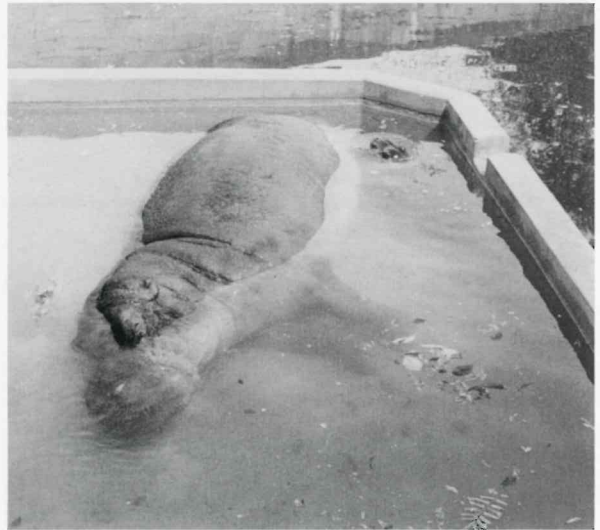
お産も浅瀬で行い、生まれたばかりの子カバはすぐ泳ぎます。目も見えています。

さて、乳はどのようにしてのむのでしょうか。ウシと同じように陸でのむではありません。母親がごろんと水中で横になると子カバも潜りました。あれあれ、大きな口をあけた子カバが水中で乳をのんでいるではありませんか。

それに左右の乳首を一度にくわえてのんでいるのには笑ってしまいました。

母親は3分位は平気ですが、子カバは50秒位でプーと水面に顔を出し、また潜ります。つまりカバは“潜水哺乳”なのです。

(亀井一成)



●おっぱいいっぱい

なんでウシのおっぱいは4つあるの？

4つあるのはウシだけではありません。動物園のキリンやカバの後足の間をよくのぞいて見て下さい。もっとたくさんのおっぱいをもった動物もいます。オオカミは8つ。もっともっと多いのはイノシシで、12個もついている。もっともっと多いのはテンレックの24個!!

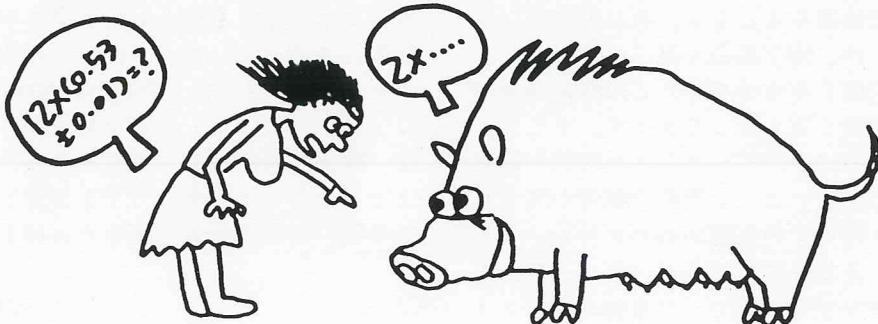
なぜそんなに多いかという、生まれてくる子どもの数が多いから。キリンやカバは体が大きくなりすぎたから、ふつう1頭の子どものしか生まれなけれど、彼らの仲間のイノシシは2頭から8頭も子どもを生む。たくさんの子どものがたった一つのおっぱいをとり合ったらみんな生きていけないから、1頭にひとつのおっぱいがあたるようになっている。

おっぱいの数がわかれば、生まれてくる子どもの数はつぎの式からだいたいわかる。

生まれてくる子どもの数 = おっぱいの数 \times (0.53 \pm 0.01)

動物園にきて、動物のおっぱいの数をかぞえてみるってのはどうかな？

(村田浩一)



動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお！～

へびについて Q and A

へびの仲間は、南極大陸をのぞくほとんどの大陸に生息しており、その種類は約2400にもものぼります。手や足のない特異な姿のためか、昔から人間に嫌われ、また反対にあがめられてもきましたが、その生態は意外と知られていません。

今年「巳年」です。そこで、へびについての素朴な疑問点をいくつかとりあげ、わかりやすく紹介することにしました。

〈なぜトグロをまくの？〉

へびは主に休息する時にトグロをまきます。また、長い体を丸く小さくさせることは、身を守りやすくもさせます。トグロをまいた上に頭をのせていると、敵がどの方向からきても、すぐにかみつことがのできるのです。

〈なぜ脱皮するの？〉

人間が大きくなると、今まで着ていた服が着れなくなります。へびも同じように古くなった外の皮がきゅうくつになったから脱皮をするのだと考えてよいでしょう。

王子動物園のニシキへびは数か月に1回脱皮をしますが、脱皮をした後の体は美しく光ってとても気持ちよさそうです。

〈へびはなぜ眼を閉じないの？〉

ほとんどのへびの眼は「スペクタクル」という透明な膜でおおわれています。ですから、まぶたがなくとも眼にゴミが入ったり、傷がついたりすることはないのです。おまけに、この膜はうろこの一部ですから、脱皮をする度に新しくなるのです。

〈どうして足がないの？〉

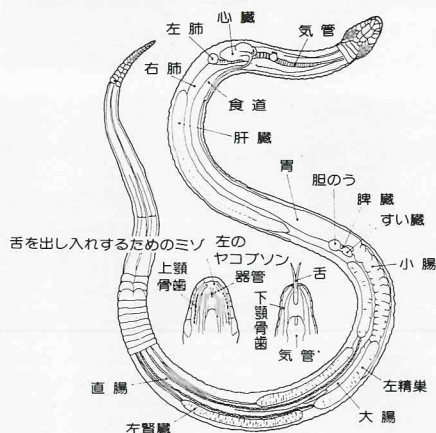
へびは、トカゲに似た動物から進化したと考えられていますから、先祖には足があったのです。その痕跡はいまのへびにも見られます。

じゃまな足がなくなると、せまいスキ間や穴を通るのにとても便利です。敵から逃げるのにも、餌をつかまえるのにも役立ったのでしょう。つまり、すむ環境に応じて合理的な姿になったというわけです。

〈へびのからだはどうなっているの？〉

自分の体の中を思い浮かべて、下の図と比べて下さい。基本的に変わりはありませんが、体が細長いので肺や肝臓や腎臓も長く、左右にずれて体におさまっています。特徴的なのは2つに分かれた舌の先です。ここで嗅いの物質をあつめて、上アゴにある「ヤコブソン器官」に送り、餌や敵の嗅いを感じるのです。

(村田浩一)



参考図書
「アニマ12月号」(平凡社)
「へびの世界」 松井孝樹(平凡社)

動物科学資料館の手引④

～楽しく見るために～

◆動物とその環境(2) 食べる(動物園での食べもの)

動物園の動物はどんなものを食べているのでしょうか。そんな疑問をもたれた方は、当館自慢のアニマルレストランへお越し下さい。動物のエサのメニュー、食事風景から糞までフルコース揃っております。

1. メニューのコーナー

外から見ると馬肉、アジ、ハクサイ、ニンジン、リンゴなど本物そっくりのレプリカがショーケースの中に並んでいます。「だれの食事だろう!」というプレートに興味をもたれた方は中へお入り下さい。

内側からは、並べられたエサがどの動物のエサで、各々の動物が一日あたり1日どんなものをどれくらい食べているのかが、一目でわかるようになっていきます。例えば「ゾウランチ」は乾草を主食にジャガイモ、ニンジン、カボチャ、ササと計71kgもある草食性の超大盛です。「ホッキョクグマランチ」は肉あり魚あり野菜ありの雑食性。又、フラミンゴランチはオキアミと今流行のバランス栄養食の専用ペレット(固型飼料)です。その他チンパンジー、ペンギン、レッサーパンダなど9種の動物のランチが並んでいます。ここに展示されたメニューは平均的な例で、季節的に量や種類が変わるものもあります。又、各動物に合わせて切ったり、くだいたり、煮たりもします。このように動物園と野生下では食べているものがかなり異なります。とは言っても動物園では野生下での食べ物を考慮した上で、入手し易く衛生的で、動物が喜んで食べる野菜、果物、魚などをバランスよく与えているのです。



2. 動物ワンただ今食事中のコーナー

メニューを見た後は、食事用のテーブルへご案内します。

3つ並んだ白いテーブルには、それぞれテレビモニターがのせてあり、5つのボタン(肉食、草食、サル、トリ、小型動物)があります。その中から1つ選んでスイッチを押すと、1～2分の映像(レーザーディスク使用)で動物の食事風景が見れるようになっています。それぞれの動物がどのように食べているかがよくわかります。草食獣と肉食獣の食べ方の違いや、サルの手の使い方、鳥の嘴の形と食べ方の関係など、それぞれの動物の食事の特徴を学びましょう。



3. アニマル・トイレのコーナー

アニマルレストランお帰りの際は、ちょっとトイレへお立ち寄り下さい。

ゾウも使える位大きな洋式の便器があります。中をのぞくと動物のウンチ!残念ながら臭いはありません。この便器はのぞくと動物の糞のスライド(31種)が次々と出てきます。よく消化されべっとりとしたもの、丸くコロコロしたもの、大きさ、色もさまざまで、よく見ると食性による特徴が見られます。ここでの最大級はやっぱりゾウでした。

動物園で糞は動物たちの健康のバロメーター。飼育にあたって、その動物の正常な糞の色、形、大きさを把握しておく事は大切な事なのです。(山本範子)



トピックス (昭和63年7月～平成元年2月)

◆夏休みの催し

子供たちにとってうれしい夏休み。この機会にサマースクール、絵画教室、映画大会など楽しい催しを行い、多くの子供たちが参加しました。

◆動物科学資料館・特別展

動物科学資料館の特別展示室でいろいろな特別展を実施しました。

- 「神戸にも象がいた!?!」(7/21～8/30)
～アカシ象と日本の象化石展～
- おもしろ動物写真館 Part II (9/3～10/2)
- ウォッチング
～こんなにもいた…日本の動物たち～(10/8～3/5)

◆干支にちなんだ催し

- 「巳年」賀状版画コンクール(特別賞入賞作品裏面)
年賀状になった「へび」が、2092点も集まりました。
- 巳年特別コーナー「へび・蛇・へび」
「へびがきらいなみなさんへ…」と題し、へびについてわかりやすく紹介しました。
- 親子のへびの花壇を作る。(写真▶)



◆天津市との動物交流(9月～10月)

中国・天津市とは、昭和51年以来毎年のように動物交流を行い、友好親善の絆はますます強いものとなっています。今年度は、天津市から、ユーラシアカワウソとアジアコウノトリ各1対が贈られ、その返礼として、神戸市からマントヒヒ、ワオキツネザル、ベニコングウインコ、ルリコングウインコ各1対を贈りました。

◆シロテテナガザルの赤ちゃん来園

このシロテテナガザルは、正式な輸入手続きなく持ち込まれようとしたもので、一旦上野動物園で保護されていましたが、繁殖をはかるため譲り受けました。人に飼われていたせいがとても人なつっこく、そのかわいさで一躍人気者になりました。



◆トラの赤ちゃん誕生!

10/28に7年ぶりにトラの赤ちゃんが生まれ、元気に育っています。そして3月から無事、一般公開できる運びとなりました。

その他のおもな繁殖動物

- クロハザル(8/8) ●ラマ(10/5) ●ロバ(12/27)
- ミーアキャット(1/18) ●シンリンオオカミ(1/26)

(村井秀徳)

巳年賀状版画コンクール特別賞入賞作品



大西 真琴
一 歳

サンテレビジョン賞



平尾 香
島立舞子高校

神戸新聞社賞



三木 加代子
神戸市立白川台中学校

神戸市長賞



信川 真子
神戸市立垂水小学校

神戸王子動物園協会賞



長部 麻衣子
霞が丘幼稚園

神戸市動物愛護協会会長賞

上段(右より)

神戸市長賞
白川台中・1年……………三木加代子さん

神戸新聞社賞
舞子高・1年……………平尾 香さん

サンテレビジョン賞
姫路市広畑区……………大西 真琴さん

下段(右より)

神戸市動物愛護協会会長賞
霞が丘幼稚園……………長部麻衣子さん

神戸王子動物園協会賞
垂水小・1年……………信川 真子さん

◆編集後記◆

今年、神戸市は市制 100周年という一つの節目の年を迎え、様々な事業が展開されています。王子動物園は今年で38歳、あと2年で人間でいう「不惑」なる年を迎えます。惑わず、焦らず、着実にすばらしい動物園づくりをめざしたいものです。



はばたき 第25号

平成元年3月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社